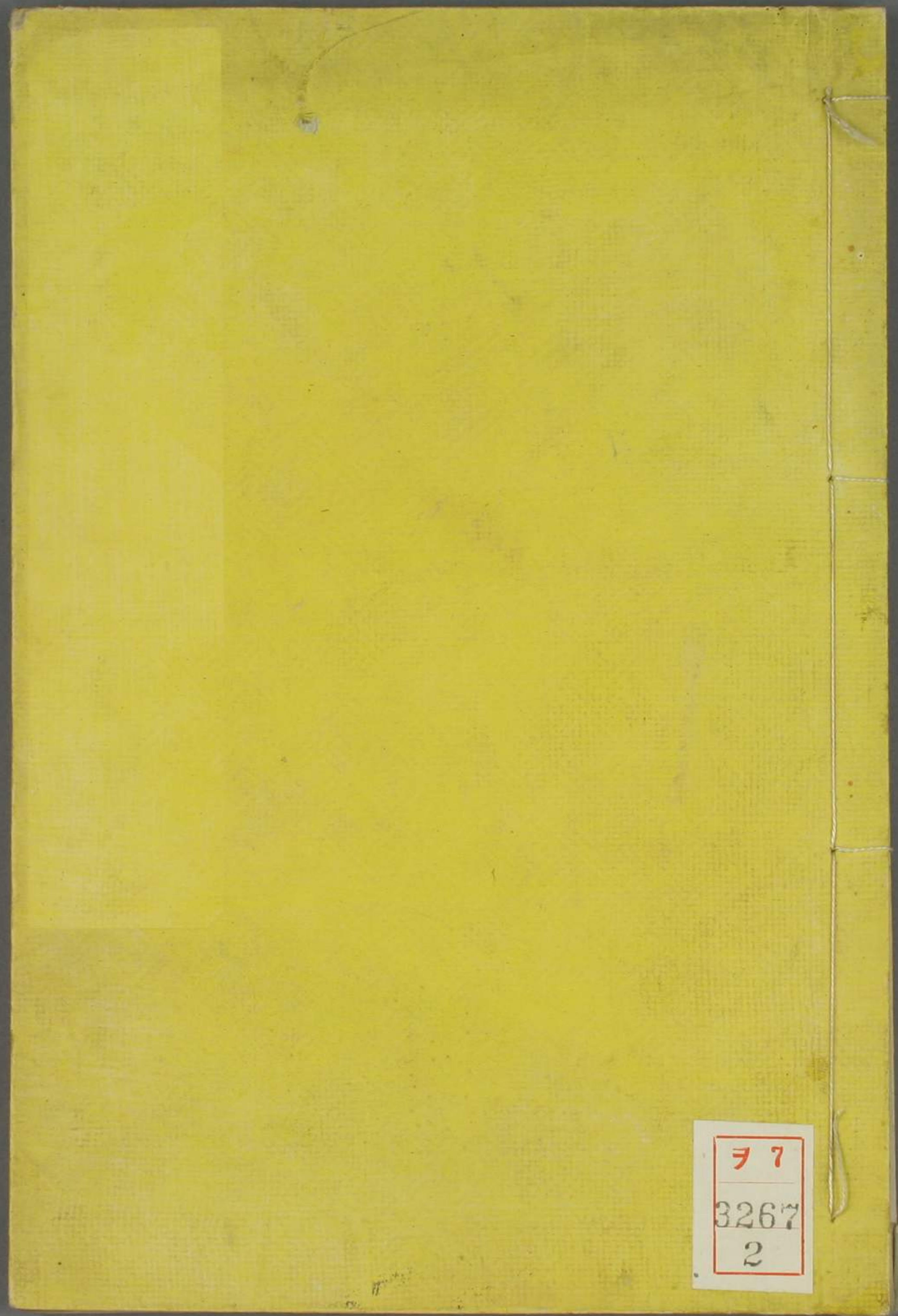
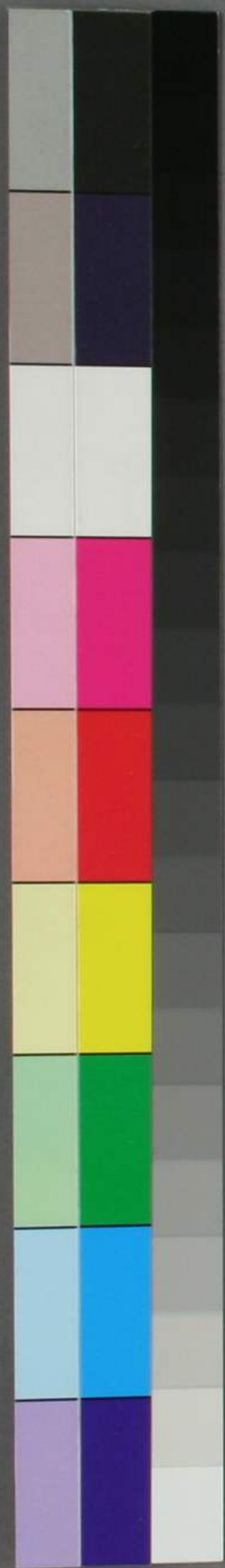


門 77
號 3267
卷 2

早稲田大學圖書館
昭 33.5.31 受
藏 書



蘇士

航西

日記卷之二

青淵漢夫

靄山樵者

同

佐野常民
録圖書之記

慶應三丁卯年二月廿一日

西洋千八百六十年三月廿六日晴漸

く海^い炎^い入り。午時蘇士^ス抵^スる。此地^{此地}埃^埃及^及領^領常^常程^程。

日土地沙磧^{沙磧}あり。草木なく。人家樹木を栽^栽る。他

所より土を運^運ひて。培養^{培養}す。水至^至て惡^惡く土民黑色。

頭より白布を巻^巻き。佛國^{佛國}アルゼリ^{アルゼリ}隊の如^如き衣服

を着^着たり。士官皆^{士官皆}都兒^{都兒}格^格の赤帽子^{赤帽子}を冠^冠たり。此地

西紅海の尾^尾に在^在る一灣^{一灣}よりて。近來^{近來}地中海の通

路開けしより新らるる設け港なり。人家もい
まゝ扶疎ふして惣て諸港の如くなり。西紅
海の行詰りよて。歐人喜望峯を回らるして。東洋
小達を便路なり。此災を經るを得る。故に貨
物運輸。旅客船繼の要港なり。往々土民繁殖を
へき象あり。是より亞歷山大^{アレキサンダー}の陸地。西紅
海と地中海との間を中斷し。亞弗利加地域よて。
北ハ都兒格小接し。港口速淺より船一里半
余隔りて所泊せり。蓋沙漠の吐流故。砂色水色を
變りて見ゆ。水尾屈曲して。船路をなす。沙泥船脚

を掘り。所泊不便なり。蒸氣器械もて瀬浚最
中なり。暫時ありて小汽船もて上陸せしむ。此間
二里許波戸場より左手海岸小臨める。英國の客
舎小投し。午餐し。汽車發軔の制限を俟つ。庭中
飯臺あり
りて風鈴の相番よて。食ふ就く。價ハ正面の
店小て拂ひ。食札を買て用ゆるを便とに。此客
舎ハ。英人の出處よて本港第一なり。庭上草木を
雜栽し。待合を慰める爲に。樓上より海洋を望
めり。諸山歷々として頗る佳觀あり。但土地暑熱
強き故。占涼の設あり。門外数弓小して。汽車會所
也。其最寄土人の家ハ皆燕巢の如く土よて作り。

顔杞傾倒して。古風を存するの事。此地瀛車を建築せしめ。英國通商會社の目論見ふて。東洋貿易簡便自在を得ん爲め。本地政府小達し。年限を定め其費用償戻しの上へ。地元小属せしめんと約束のよし。今全く埃及の所有となされりと云○西紅海と地中海とを亞刺比亞と亞弗利加洲の地先交接する處よりして。僅に濤路を隔つ。凡百五六十里の陸路あり故に西洋の軍艦商船も都て東洋より來船するハ。喜望峯の迂路を取りざざるを得。其經費大よりして運漕尤も不便なりとて。

千八百六十五年比より。佛國會社より蘇士より地中海までの掘割を企て。亦ち廣大なる土木を起し。此節經營最中のより。瀛車の左方遙々セントナと多く張並へ土倉を運ぶ人夫等の行りふを見る。此功の竣成ハ三四年の目途よりして成功の後ハ。東西洋直行の濤路を開き。西人東洋の聲息を流通し。商貨を運輸する其便利昔日小幾陪するを知らるといへり。總て西人の事を具に。獨一身一介の爲よせむ。多くハ全國全洲の鴻益を謀る。其規模の遠大よりして。目途の宏壯なる猶

威をべー。○夕七時比。調度食料。麵包。乾肉。果物。葡萄酒等を用意して。汽車に乗て。彼を。此車道の傍處。ミタントを設て。ミタントハ。四方鉄又ハ木柱家の根とも。布幕をもちて雨露をまのく。土人用て仮の家屋とて。蓋礮礮の地ハ民水草小ふりて移轉を故小家屋も運搬不便なる為斯作爲と云荷物を積む。又ハ人夫も住居せり。跋鞞會所より數十歩隔て沙漠なり。草木生ぜど。茫渺なる曠野。風の吹廻り小ふり。所々高低あり。途中憩休所五三軒人家ありて。汽車中の客小食料を驚く。汽車道の側小。一の往還あり。土民駱駝小荷物を負い。一々通行を。凡沙漠を渉る小馬牛

談祿

ハ飲料なるとハ。遠き小行り。一。惟駱駝ハ渴る堪るを以て。負載の用を為と云。上古乱世の時。盜患多々れハ。人民數百人相集り。駱駝數百小荷物を負いて。鄰國小販賣せといふ。此客舎りて。汽車中。塵沙を掩ふ。用ゆる目鏡。又ハ薄紗裁を買て。途中小備ふ。夜十二時談祿小到る。此地蘇陸路九十里。汽車小陀日多國の都府小。土域て九八時間小達せエシフハ亞弗利加洲なれとも。管轄ハ總て都兒格なり。亞王ありて。亞王とい王は亞王と云。國內の政事を司る。其風俗政治とも。都兒格と同一。土地東隣ハ。沙

漠ふて草木水源なく。此地より南方漸く稼穡の地となる。地中海に臨める地。廣坦膏腴の嘉壤也。尼兒河といふあり。洲内月山といふ所より發源。沿流地中海に入る。河の兩岸に勿論支流分派して。其沿岸都て塗泥の良田とて。史に據て按る。小。毎歲一次。潮水盛ふ至り。漲溢せる允深三十尺。廣二十里ふいより。田土を培養せる農夫の灌漑糞畜せるふひとく。其潮水の至る所を荒砂は属せるより。其潮の干満をもて年の豊歉を兆せといふ。如斯荒蕪砂磧の地といへとも。自然

の養ひあり。天豈人を棄むや。此國古昔極盛の地ふして。風俗文物。歐洲諸邦に先づつて開け。其名遠迹傳播して。歴代相傳の古國なり。が。教法の沿革あるより。盛衰汗隆相換り。建國後七百余年ふ至り。日ふ衰弱ふ赴き亦振はる。其後數百年麻哈麥回教を亞刺伯に唱へ興をふ當り。遂に其が為め小國を棄てて。都城の大庫に藏めたる儲書七十万冊あり。を。回部の者其書を取て焚捨るりといふ。其文物の盛なる想像をへ。千八百年代。佛國王拿破崙攻取。が。又都兒格の紗轄とな

り。其後久く羅馬小属。總督を置け。尔後都
児格小叛て。大小土地を開き近頃ハ。其附庸小属
。垂王の権ありといふ。此地小一巨寺あり。マル
ブルふてなり蠟石建立。凡十余丈許の伽藍なり。上
ハ柱梁榱題とも彫鏤。天井金箔五彩の焔耀目
を眩くらま。下も蠟石を舗て石甃として。登る者ふハ。
皆を脱々はなはむ。四廊層閣環列せり。此礼拜堂小ハ。
門戸砲卒警衛。寺中より市街を臨めハ。一目瞭
然。世界有名のヒラミード石を三角小積上る、凡
巨首あり。市中第一の奇觀といふ。此行ハ夜中な

れハ遊覧を得ぞ。
同廿二日西洋三月晴。曉一時瀛車ふて。又發。朝
十時亞歷散大蘇士より陸路百六十里。地に着ぬ。
密。土人多クハ。此地ハ。古國ふて殊小首府なれ
ハ。古器物考證小脩ふへきもの多ク。博覽會場小
收てあり。皆太古の物ふて多クハ。土中より掘出
。たる。棺槨の類と見ゆ。人の財を形ふて彩色
朽せを依然と乾らるびる手足腹部とも幾
重も卷さるなり。世ハ所謂ミイラなりらん。幾
者の飾小用ひ。金具の襟小挂るもの。又ハ指環
曲珠。土製の人形蓋桶素焼の甕瓶ハの類。虫形を

彫。印類ハ鳥篆カキモノふて。雷斧カミヤリ雷槌カミツツミ。古劍カミヤリナと。種々奇品あり。此港ハ地中海の要港ふて。貿易も繁昌ハルカニ土地も富饒ふて。戲場妓樓カキモノなと何きも歐人半せり。土俗婦女ハ黒衣首カミより包カミ。顔ハ眼の間ふ束木を立て掩カミひ往来カミ也。貴族ハ常カミふ家居深窓カミふ在て人ふ面カミを恥カミと。只一夫一婦の外妾カミを畜カミもふ多カミハ數十人ふ過カミくといへり

西洋ハ東洋諸邦カミと異なり。帝王より庶人カミふ至る迄。一夫人のカミよて。妾媵カミふ。即是閨門カミより推カミして天下ふ及カミほは理カミならむ。然カミる小此國妾

屢多カミを榮カミと。風習カミふて。當時都児格帝カミハ四百八十人余の妾ありといふ。殊カミふ男子却カミて妬情カミ添カミく。若カミ一妾私カミふ他の男ふ面カミをカミあれ。直カミち小これを害カミといふ。此地歐洲の最寄カミふ在カミといへとも。其陋風カミを改カミめさる。因襲カミの久カミき開化カミふ後カミれさといふ。佛國の晋士カミセ子カミラール来カミりて。安着カミを賀カミ。其官衙カミ一泊カミを請カミふ

同廿三日西洋三月佛國の晋士館カミより直カミふ馬車よて郵船カミふ至カミる時カミセ子カミラール兵隊カミを出カミて

警衛一。小艇もて本船より送り。度海郵船といふ印
一。朝五時發せ。午後風起り驟雨あり

同廿四日 西洋三月 晴。無事

同廿五日 西洋五月 晴。無事

同廿六日 西洋三月十一日 晴。風強く波暴一。暮六時、伊太

墨西拿

里亜領地。西治里島。墨西拿港。小着さぬ港。山を負
ひ海に臨む。人家海岸に連り。結構高く聳て。頗る
修整せり。砲台に突出せる平嶼の地先小在り。所
泊の船舶ハ。数りふといふとも貿易盛なり。て。
土地の富饒なる体見ゆる。始て歐羅巴洲頻海小

撒丁
歌ル西克

入る。珊瑚精工の業をもて。土人繁富なりと云。船

小来て数種を商ふ。其美風船西のり

同廿七日 西洋四月 晴。曉二時。墨西拿を發せ。逞風小

て。船の動揺甚し。

同廿八日 西洋四月 晴。風強く船動揺旺のり。朝九

時。撒丁歌ル西克二島の間を過く。此二島ハ。往昔

伊太里亚小属せり。百年已來佛國の属となる

といふ。サルジニ一。其側羣島星列して。各跪伏

あり。海峽。蜿蜒曲折して。恰も圍池を渉る如く。山

水天然の妙具なり。島中一个の白壁矮屋あり。乃

是元伊太里亜國の陸軍總督ガルバルシ―退隱
の居なりといふ

此ガルバルシ―六七年前、彈丸黒子の地より。
崛起―教法の真なりさるを論―。廢佛の説を
主張―奮然兵を興―。威を泰西小輝―。伊太里
亜全地。頗整小席卷ビシクマクせんとする勢ありて。其雄
圖四鄰一時小震ビビク畏オソレするに至れり。功名いささ
堅ちさる小。蕭然退休―て衆オウ瑜ユの晩節を高く
―。悠々余齡を樂―む。其英風猶欽尚する小堪
さり

コルシカを諸山嶺ことりて雲表小聳へ。名小松
小佛國初代の那破烈翁ナハレウの出生の地なり。當時勃
興オウキョウする。龍虎飛甯の兵威。向ふ所。山を回―。海を倒
―。盛名。八荒小震ひ。功業千載小煥ハルハルたるを追想―。
山水の鍾秀靈英よく。人傑を生るの信なる感嘆
せり。風愈暴く巨船を掀フキけ。英雄の餘氣猶いまこ
消せさるを覺ふ

同廿九日 西洋四月三日 晴。曉より風西北小轉―。朝九時
半頃。佛國馬塞里港小抵オキる。佛國の先小電線を以
て着船を本府小通達―なれハ。我船の岸小いさ

るやいなや砲臺より祝砲を報し。程なく本港の
の總鎮台ハツテ一ラふて出迎ひ。上陸して馬車
に乗らしめ。騎兵一小隊前後を護し。ガランド
テルドマルセーエといふ郷導し。鎮台并海陸
軍總督市尹等各礼服より代り來訪して安着
を領し。午後三時頃フロリラルトジュリイ先
導し。鎮台及び陸軍總督を訪問し。佛帝の別業を
一覽し市街を見る。暮六時歸宿を。夜八時鎮台の
郷導ふて。劇場を見る。小陪を。

同晦日

西洋四月四日

晴。朝海軍總督及留士ゼ子ラール

と訪問し。夕鎮台の招待より。其官衙小到る。
鎮台并附屬の士官多く相聚り饗せし。小陪を。夜
十一時歸宿を。

三月朔日

西洋四月五日

晴。朝八時寫真場小到り。一行の

合圖を写せしむ。其より花園に至り。鳥獸草木の
珍奇なるを収羅し。畜を看る。

同二日

西洋四月六日

晴。朝七時。各馬車より本地より三

十四里西の海岸ツロロンといふ所小到り。軍艦
并諸器械を貯ふ所を見る。此日朗霽。四望田野。麥
秀て菜花開き。其余名のなれざる草木の花咲き

水底術

て。聊旅懐を慰せり。鎮台附属の官吏出迎ひ。兵卒
半大隊許警備し。奏樂すとあり。程なく汽船にて。
軍艦小請し。大砲其餘蒸氣機關等を見了まひ。發
砲調練をなす。又我輩も大砲試發せしめ。夫より
他船三艘小移る。每船砲あり。午時上岸を。鎮
台へ請し。午餐を供し畢りて。製鉄所。鋸鑛炉。反射
海底へ沈没せしめ。暗礁。其外水底小在る物を具
小見留る術を見る
此術ハ綴つづ成なりなる護膜ごまくを縫くるといふ。て。四支

授功牌

同三日

西洋
月七日

晴

午前十一時。郷導ありて。三兵調

六穴へ水の徹らぬ様あり。首小ハ頭形は蛇や
うなるものと冠り眼の辺りより破やぶ隙ひまと張り。
見るを自在にして。天窓よりユムの管と通し。
水外へ出し。空氣を通せしめて幾時までも氣
息堪しむ。此日沈没せしめ。水底淺しといえと
も。九四五十とニウト程なり。空氣通せしめ。幾
時までも堪ゆるといふ
夕五時半頃。鎮台に抵り。其より同所を發し。夜に
入て馬塞里の客舎に歸る

練と觀る小陪せり。三兵ハ。歩。卒一レ座なり。此
調練ハ先頃東捕寨ふて戦つり一時有功の者へ
功牌と与ふる為の行軍式なりといへり。其褒賞
の式ハ三兵と聯袂前行を進そまり旋回して四方
小布列し。其中央の網人オホゼイの觀望を属せる地
位小當りて。其褒賞を人の功の大小より。順
席と逐ふて立しめ。全軍の惣督及軍監いつをも
馬より下り。高聲に賞詞を唱へ。何くの役を。此
りて。功牌と与惣督手つくり功牌を其人の胸間
ふと云ふ條也に掛け互小黙礼して式畢る。

此式ハ其出陣の時戦功ありしと。軍監より委
しく認め。確然と頭證あるを大将へ言立て。其
より帝王小奏聞し。其允許を得て其ものに達
し。且其國の功勞ある事を國內諸人小見聞せ
しめむ為。頭然と眼前小其功牌と与ふるとふ
て。尤度く功あれハ其都度く其數を懸る。故ふ
國人老幼男女小至るまで。是を見て有功の人
あるを知りてありめ貴ふといへり。誠ふ士を
賞する所明りよして。功を勵むを公なり。故
ふ士卒小至るまで軍小赴き身命を輕んし。立

功を重とて、國の爲ふ死をいとむる所以是
を見て其素あるを知る。

同四日 西洋四月八日晴。學校ふ到るふ陪せり。舎密學試
驗場よて種くの製藥方及顯微鏡の新發明なる
を見ら。夫より修學所會食所生徒部屋等を看る
何とも清潔ふて規則修整なり。此時曩中の生徒
凡五百人程寄宿せりとそ

此生徒寄宿中の費用。修行衣食。其他一切の雜
費都て一歳凡九百フランク程ふて足ありと。
蓋富有の者合力して。別ふ助成の設けられいな

黎昂

同五日 西洋四月九日晴。明朝本地を發し。巴里ふ赴くふ
より行李を整頓せ。此夜鎮台。陸軍總督。留士。世子
ラール。市尹。其他附屬士官十二人を招集して饗
宴あり。夜十一時退散せり
同六日 西洋四月十日晴。午前十一時半。氣車ふて夕七時
黎昂ふ拉着て。歐洲館といふ客舎ふ投宿せ。此氣
車ハ
毎日午前十一時。此地佛國の一大都會ふして。已
發軔の期限なり
里ふ垂く市街の布置家居も頗る宏壯花麗なり。
廣大なる繅絲場。紡織場あり。凡西洋婦女の服飾。

其他の絹紗綾繻子段子綾羅錦綉の類皆此地より出る職工常より七八千人器械屋宇の設も亦壯大なりといふ此日夜小入て着せし故小遊覽を得

佛都

同七日 西洋四月十一日 晴朝七時發氣車小て夕四時佛都巴里斯へ着ぬ此時書記官カシヨン及御國より先着の士官其餘の人々出迎ひぬフロリハラルト先導して巴里都中央のカブシシメ街なるガランドホテル小投宿せり
同八日 西洋四月十二日 晴七時此都府の外國事務大臣

へ此方到着せし由を達する書翰を認め向來滯

留中の規則等を定めらる

同九日 西洋四月十三日 晴午時在留中衣服等の注文

て夫の職工に託せ

同十日 西洋四月十五日 晴魯西亜へ行し人々事充て本

邦へりへると告別し各写真寄書など属せ午

後借宅を檢点せんとしてフロリハラルトカシ

ヨン等を連て市中を巡覽し此處ふ名ある花園

鳥獸の異類を萃し園を見る

同十二日 西洋四月十六日 曇曉六時より又借家を見ん

明治三十二年四月

三月二十二日

十一日

として市中へ出ぬ。此日朝七時。本邦の生徒。倫敦府より来り旅館へ候也。

同十三日 西洋四月十七日 晴。午後一時博覧會の場所を見

る。

同十四日 西洋四月十八日 晴。夕四時此より海魚を聚め

養魚所

養ふ所を一覽也。

此畜場ハ海魚杯の游泳を横より視。縦より視。小便なる為。玻璃器を以て製せし大なる函。小潮水を湛え。部類を分ち。海底の沙石藻草及貝介類の品彙を集め。海底の真状を摸

魚鱗其中小游泳を自在に熟視する甚

奇なり

同十五日 西洋四月十九日 晴。午後二時フロリヘラル

トレセツフなど来り。博覧會委任の議事役ブレ

ーシーホルトと同道して。本邦産物等差出を。手

續ホ談合あり

那破烈之墳

同十六日 西洋四月二十日 晴。午後三時。佛帝第一世那破

烈翁の墳墓を尋ね

此墓ハセイヌ川向博覧會場の最寄にて。デザンバリードと云所也。結構壯麗規模廣大よて

他邦より来るもの彼此を擇えらむを繼觀ついでみせしむ。
墳墓の傍に数棟の家屋あり其家屋に寄寓きよぐせ
るは。都て戦争の節。重傷を受け廢人となりし
類なり。蓋官より石棟の地を撰えらみて。國より力
廢疾の者等を安治せしむるの法と見ゆ。墳墓
の前殿及四方の戸に小立て。門番なとせる者
は多く。石戦争の節手を傷めし人々也。又器
械きぎなと装填そうてん羅列られつせる處を守り多く足あしを傷
めし人なり。

同十七日 西洋四月雨。朝九時。博覽會の事ふより

て會議せる公事あり

同十八日 西洋四月雨。午後二時ボワデフロン

て競馬を觀るに陪屯へい屯カシヨンも從へり

此競馬場は。圓形して周圍二里余なり。此日ハ

特小盛舉なれり。騎人も諸國有名の者集り佛

帝より諸國の帝王も看官となり。都下の士

庶相競みて奮出せり

同十九日 西洋四月晴。無事

同二十日 西洋四月雨。朝八時を借家を見立る

同廿一日 西洋四月曇。夜九時より故の外國事務

大臣ロアンデロイス夜茶の招待に陪を。各國の
 ミニストル其他親屬男女會集。種々の響應あ
 り
 此ロアンデロイスといへるハ。墨是哥マキシ
 ミリヤンの事件につきて退職。此時議院の
 官小て草木會社の頭取を勤めたり。此夜茶の
 筵ハ尤社會の一なり。親屬知音男女とも目を
 ト。夜餐後小集會。茶酒を設け。相互小飲笑
 談話して一宵を徹をなり。此會ハ其身分小ら
 り。交際の事務なとも表向の掛合ふて。爭論ナ

至るへきも。歡笑中ハ彼我氷解をる事ありと
 云。又一局一部小冠さる職務小在るものハ。時
 時此會を催。其局官を集め其才能を親試。
 其懇親を篤く。大小公私小資けつりといふ。
 佛國小てハワワレと唱ふ
 同廿二日。西洋四月。曇朝五時礼式掛ラチユス外
 士官一人礼部大臣りの書翰を持參。来る四
 月廿八日。我三月廿四日。即ち日曜日なれハ午後第二時
 小チユイロリー宮小ねゐて國帝謁見の事を申
 来る。午後二時プレイ弁トナ等来る

佛帝
謁見

同廿三日 西洋四月晴。朝博覽會。裁。フレイ。我士官
の内。小て唐銅鑒定。のものを定。る事を言遣ハ
に

同廿四日 西洋四月雨。午後二時佛帝。謁見の式。あ
る

午後一時何。きも礼服。佛國。小在。る。御國の。留士
ゼ子。ラール。フロリ。ヘラルト。も黒羅紗。小金飾
の。服。小て礼冠。を着け。佩劔。小て来る。同半時礼
典。掛。二人。ラ。モ。エ。ス。シ。ヒ。エ。イ。礼典の。馬車。を備
へ。何。き。も紫羅紗。小金飾の。礼冠。佩劔。小て来る。

カシオン。も通弁の。き。小来る。我公使。小ハ衣
冠。全推。并傳役。ハ狩衣。歩兵頭。并第一等書記。ハ
布衣。第一等翻訳方。砲兵指揮。第二等書記。等ハ
素袍。なり。郷導者。小面會。旅舎。庭上。より礼車
小乗。き。り。第一車。ハ前乗。四馬。御者。二人。騎士。二
人。宛。車。の前後。小立つ。全推。傳役。歩兵頭。礼典。掛
り。三人。第二車。ハ中車。六馬。御者。四人。騎士。二
人。宛。車。の前後。小立つ。公使。并礼典。掛。一人。并カシ
オン。第三車。ハ後乗。二馬。御者。二人。宛。車。の前後
小立つ。第一等書記。歩兵指揮。并。コシ。シ。ユル。セ

子ラールフロリヘラルト。ジュレー。第四車ハ
二の後乗。前同断。第一等翻譯方。第二等書記并
シーボルト。並車三の後乗ハ。公使の侍者三人
乗せり。城中正門小到着は。騎兵二人兩側小立。
銃兵門内兩側小並ひ。殿小軍樂部立並ひ。當方
通行の時樂起る。玄關小入り下乗。階上小ハ
戎器を持。百人の親兵立並ひ嚴整なり。礼典
掛惣頭取。礼服小て階下小て下り迎へ先導セ
り。一と間毎鎖。門官二人宛立侍。行當れ
ハ開き。入きて直鎖。第五の戸扉小入る。

即謁見の席小て三段たり。檀在佛帝。右帝妃。
左方外國事務執政大臣。其他貴官列。右方高
貴の女官列。我公使ハ其座前小就き。式
礼ありて。其掛王名簿を披露。相見演説あり。
譯官。公使の側小進。佛語小直解。て通。佛
帝より答詞あり。兩國親睦の交際あり。今
相面謁を得。満悦のふを述べ。附役カシ
ヨシ公使の右小在りて我邦語を譯。て通。
夫より第一等書記所奉の公書を服紗より脱
。全權へ達。全權進。て是を公使小捧。公

使取（帝座小を）む。時小帝座を立ち公書を
 請取。一礼ありて。事務執政小渡されり。畢り
 て公使帝妃小黒礼あり。帝妃も答礼せり。全権
 ハ公使の側子進一礼ありて。一同退出。次
 の間小いより全権より贈品目録を礼典掛惣
 頭取へ渡せり。夫より玄關まで礼式掛頭取送
 り出たり
 礼典畢りて歸館せり。夜祝賀の共宴を催せり。此
 日公使の馬車行装を見んとて。都下の老幼、勿
 論近郊より来りて。群集一道を填てり

風船

同廿五日	西洋四月二十九日	曇	午後市中を遊歩せ
同廿六日	西洋四月三十日	晴	朝八時佛帝より贈品来る
同廿七日	西洋五月一日	晴	無事
同廿八日	西洋五月二日	晴	朝馬塞里鎮台より人々の写真来る

真来る。午前十一時風船を観る
 風船ハ輕氣毬と云。佛國にてハ近頃一層の發
 明のもの。其仕方エムふて巨大なる圓形の囊
 を作り其中にカスを充分に満ちしめ。其カス
 の輕氣を由て。騰揚せしむるなり。夫よりて其
 巨囊の周圍に長繩を廻らし。其繩を纜聚せし

風船の構造
 風船の構造
 風船の構造

處子。一の小屋を繫付^つ其中ふ人を乗ら^りむ。大
槩風様小從^て是を試む。但別ふ船楫の設ちと
まハなり其大なるハ二十人乗位もてあり。尤
カスの輕氣あるゆへ小騰上ハ意の如くなき
ども甚^き度を超えハ害あり。故ふ其分量極め
て所要なりといひ。又下らむとせる時ハ。前
の囊裏に充て^てガスの氣を器械ふて漸く^に
漏減^{して}。碍^りなく地ふ抵^る様^に也。是尋常空
中を飛航する風船なり。又別ふ一處小騰上^し
て一處小低下^{する}仕方あり。是ハ唯氣毬の下

は太き長繩を繫き。こまを騰上せ^しめて。隨意
の處まで繩を留め又其繩を引て低下^{する}也。
但此類ハ人の遊觀場と設け置く。曲馬其他数
の手法なり。雜觀せ^しめ。乗遊を望む者あ
れハ價を取りて直に乘ら^しむ。尤氣毬上下の
時ハ。必音樂を奏^し。導引の乗人ハ稍騰上せ^し
處小^て。紅白の旗を麾^つて看官に示^しを常^にに
是ハ巴里の写真師ナターールの發明なりと云。
好事のもの價を費^{して}遊乗^せ也。我本邦にも。往
林^子平^の位。此風船の圖を著^し。猶工夫
あり^し。未^だ如斯開達發明^{に至}ら^ず也。

劇場

同廿九日 西洋五月三日 晴。夜八時より佛帝の催せる劇場を看る小陪を

此劇場を看るハ歐洲一般の礼典よりて九重礼大典等畢まハ必其帝王の招待ありて各國帝王の使臣等を饗遇慰勞する常例なり故小礼服盛儀にて往くところて其演劇の趣向仕組分明ならざれども多クハ古代の忠節義勇國の爲小死を顧みざるの類感慨ある事蹟或ハ正當適宜の譬諺よりて世の口碑小係り人の可咲とを交へ詞ハ接續小言語ありて大方ハ

歌謡なり其歌曲の抑揚疾舒音樂と相和一幕置位小舞蹈あり此舞蹈も二八の娥眉名妓五六十人裾短き彩衣補裳を着一粉妝媚を呈一冶態笑を含省細軟輕窈を極め手舞足踏婉轉跳躍一様小規則ありて百花の風小繁乱あり如し且喜怒哀樂の情を凝一一段落の首尾を整へ數段をなせり舞臺の景象至斯燈五色の玻璃小反射せしめて光彩を取るを自在し又舞妓の容輝浚光或ハ雨色月光陰晴明暗をなす須臾の變化其自在なる真に迫り觀

舞踏

四月朔日西洋五月四日晴曉四時郵船より託して各書を
家郷へ寄せ。夜十時ニストル館に至り。舞踏を
看るに陪を

是を舞踏の席を開き親属知音を招待するに
て。亦礼會の一なり。蓋夜茶會の盛舉なるもの
なり。施設も頗る華美なり。凡其催あるに
らり。招待書を廻し。其日に至れば。席上花
卉を飾り。燈燭を点し。庭燎の設。食料茶酒菓の
備へ等。華美を盡し。其席に來たる賓客男女と

も。多々礼服を盛んし。飾り相集り。互に觀悟
し。音樂を奏し。其曲小應じて男女年頃の者偶
を選ひ配を求め手を携へ。肩を比して舞踏を。
其容の衆寡小より幾所となく舞ふ。其法則は
りて少年より習ひ覺ると通例なるより大方
晚頃小至りて散を。是則好を結ひ歡を盡し人
間交際の誼を厚ふものあらむ。男女年頃
の者。相互小容貳を認め。言語を通し。賢愚を察
し。自ら配偶を撰求せしむる端にて。所謂仲春
男女を會せといえり。意小符合し。又礼義正し

く彼の樂たのしみんで淫よこしませざるの風を自然しぜんに存せし
ならん。殊または博覽會の大典より國內事務局
の催なれり。國帝后妃こくたいごひもいづれ貴族高官の勿論
都下豪民集會とくだうみんしゅうかい。各國帝王貴族其他在留の諸
官員盡く招待ありて其設の花廳を盡く趣向
の高大なる實小目を驚おどろせり。其以下處々ふて
此催りたる其身柄より同おなじらにといへ
とも其趣一なり英國太子其公使館に到着
せし夜の舞踏なとみり。佛帝后妃とも自ら共
に舞踏せりといふ下民はいづりても其分

凱弓

應おこへ或は茶肆小持出ちやしつこもちだり興行するも有り。是前
條よりいふ自ら男女配偶其倫を得る所以なり。
此會を佛國よてハバルと云。恰も本邦の北峯
峯大原岐岨叢原等盆踊の類に似て大に異る
ものなり
同二日西五月五日晴午前本地有名のアルクドリ
ヨンフといふ巨閣こくに登る。アルクドリと云意
義表いぎひょうを即凱旋の偉勲を
此閣は千七百年の末初代那破烈翁なはれつおう伊諸國
の戦争小殊功を奏し凱旋の後偉勲を後世に

傳ん爲め、大小土木を興して建築せしもの也
といふ。閣の全體横長き方面にて都て密質な
る石にて築立たり。高さ九四十メートル我二
間正面廣さ九二十メートル。側面の幅。之半
にして閣の中心凡十五メートル程の處より
圓形に切り抜き、閣下前後左右通行を自在な
らしむ。而して其築立り石面四方とも都て神
像又ハ古代有功の人物。那破烈翁勝戰の圖な
とを鑄附け。裏面より其建築の縁記様のもの
を記せり。閣の下ハ一面は漆喰ふて。九徑り七

八十メートルの圓形に敷並へ。入口は鉄垣を
圓圍して。太き鉄鎖を挂けり。閣下左方の裏面
小小扉あり戸内一の暗室あり。其中程小石階
あり。螺旋して閣上へ登る。但目を限りて人の
登るを許さず。門闌ありて一フランクを収む。石
階の數二百八十五段ありて閣上へ登る。閣は
重層小建築。下の一層ハ歩行自在の如く。全石
面の方庭小ひとく。眺望四顧隨意なり。其廻
り縁も巨大なる石にて。胸下までもめぐるべし。
爰して下瞰をせし面ハ王宮門前を直向し。

九十八丁程直きと線のとく。途上三又ふーて
中い廣く馬車荷車等の通路。兩側ハ瓦斯一存
ふ立並へ。又樹木蔭翳せり。瓦斯灯の下より兩
側とも人家軒下より
接し。漆喰叩ふ際。處々人行の往來とせ。又馬車路
と。人行の路の際。處々人行の往來とせ。又馬車路
揚塵の時ハ。管もて所へ水を灑き。雨日
ハ馬車路際より。小渠ありて。處々大渠へ泥瀦
を泻下せ。巴里都下壯麗背面カラントアルメ
の市街ハ。皆りくのとく。一麗背面カラントアルメ
の通街も直線のとく。えて。九二十丁程。其
間セー。又河の鉄橋を超へ。巨大の銅像ハ初代
那破烈翁あり。又正面小宏壮なる廓ハノオト
レガハあり。是ハキリストの本寺の如きも又
のふいて。府下最第一の巨刹也

左小高く聳るハパンテオンあり。巨刹の一あり
り高樓あり
トル六十五メー。又右邊ハ舟楫の行通ふハセヌ
河あり。岸ハ二三の巨屋ハ。公議院スライレ
鑄錢局外務局也。又其右ハ長圓なるハ。博覽場
なり。なを右郊外ハ高きハ。モンバンリヤンと
いふ。全府警衛の城堡あり。其側樹木森鬱する
ハ。ホワテブロンなり。其他郊外まで。布基羅網。
手ハ取るう如し。但其高聳なる目眩。股栗を覺
ふ。觀了て下るぬ
同三日 西洋五日晴。夜九時よりチュイロリー宮殿より

て舞踏を看る小陪に。此舉ハ席上ニ瀧なと設け
庭園張燈の飾り等。國內事務局の催一ニ比一
盛會あり

キユーロリー宮ハ。國帝の居城よて。前ハ市街ハ
接一左傍ハセーヌ川ニ倚り。周圍石築の長家
造り。入口の門くハ砲卒立衛也。城中石よて
敷つり。往來自由を許し。右の方鉄垣の仕切あ
りて中程ハ石門あり。門上石よて彫鐫セー獅
子の飾あり。門の正面ハプラスチックコ
ドといふ廣き一欄のとき地所。都て漆喰敷

て數百の瓦斯燈あり。又噴水器あり。黯夜とて
も燈光掩映一。人の眉毛を弁し。其壯麗實ハ
手一て嘆をさ堪さう。門の左右騎兵立衛也。
門ハ入て鋪石の廣場玄關様の所ありて。内ハ
入れハ左右ニ階子あり。正面の屋根ハ國旗を
立つ。此所廣さ十間許。興行六十間許なる一。
是則帝宮あり皆二階又ハ三階造りふて。折廻
り同一造りふて諸局あり。門内往來の左又廣
場あり。三方とも王宮同様の構ふてミゼイト
て古器物を羅陳一置官局なり。二階ハ油画或

へ古代の珍器。各國今捕の品等貯り。初代那
破烈翁在世の衣服諸道具類秘藏。佛國起
画圖。所持軍艦雛形あり。油画の場所。い。古代
の名画なと世ふ珍きものあり。画を好める
男女とも許しを受模写するを得る。王宮裡。手
廣なる庭あり。樹木生茂り噴水泉池もありて。
周圍鉄垣ふて繞り。入口ふい炮卒守衛。其
中男女貴賤をいふに遊歩往來自由ならしめ。
帝宮より一と目し見ゆる所也。平日國帝親
く指揮の訓練。此内ふて施行なりといふ。實

戦争画圖

小王侯の遊園といふへ

同四日 西洋五月晴。朝パノラマ小到り。伊澳戦争の
時佛國援兵を出し勝利あり。圖を看る

シヤンセリセイ博物館の側ふ在り。周圍圓形
ふて亘り九十間四方なるへく。入口ふて傘杖
を預り。水戸錢一人前一フランク宛なり。中央
より。階子ふて螺旋て登る。上れハ堂の中央
最高き所ふ出る。其所ハ山の巔ふ擬し。其傍ふ
大砲小銃破裂せし或ハ弾丸の割るる杯あり
て其實況をある。稍遠く行けハ。四方山間。岨曲

の模様。遠近道路縦横の位置。樹木の疎密。烟雲
の出没。盡く備り。澳の軍勢と佛の兵卒と乱戦
を及ひ。双方の軍威方々熾なる体を書き。殊小
人物大なる所。真に迫れり。就中佛帝左右并
小騎兵大砲を率ひ。澳軍は馳向ふ處。彼方より
發せる彈丸此方待医の馬に胸より中り躍跳を
する体。佛帝回顧せる様。其迹より来る騎兵も。彈
丸も中り落馬せるものあり。又此方より發せる。
大砲彼方火藥車の中り。人馬共に裂け。車輪空
中より飛揚し。其火色物凄まじく見へ。双方の

の手負死人も夥し。或は騎歩兵大砲の山間を
馳驅し。又ハ村落の際より互小突出して。抄合
小銃大砲の發せる。歩卒入乱劔にて撃合。傷者
を持運ひ。疲卒憩息する。或ハ一處の味方苦戦
あるを見て。他方より馳て之を救ふ。或ハ大將
と見へて勇ましく装ふて兵卒を指揮せしむ。
忽ち撒兵し狙撃せられて落馬する者も。諸の
勢盡く極る。戦場の形状。目の物より視る如く
なり。尤佛國の方勝利し見えたり。但將官等ハ
其時の写真より描きしなりと云。先導者

一と切く講説られとも分り難し。全賸の画
圖油繪小て圓形よりて勾倍をとり。遠近
距離などを見せしめなるべし。其模写精巧
なれハ人を以て實境にあふ想を起さしめ。頻
りに。杞腕唾手などあるものあるもいとあう
し。抑油繪ハ歐洲ふて古来より之を珍貴とし
て。名人の筆に至りてハ一面の額其價數千金
に至るといふ。唯奇を好と翫を衒せしめら
る。今此画の其妙を極め當日の景況を今日ふ
る。一むるを見せしめ。亦世用欠くへうらさる

一具なるべし

同五日 西洋五月八日 晴朝本邦在留公使レオンロスの
留守を訪ふ

同六日 西洋五月九日 晴夜九時より評議局舞踏を看る

同七日 西洋五月十日 晴午後三時本草會社討論場へ人
を遣はさる。外國局官吏ルイトジョフロハ

名簿をさし出せり

同八日 西洋五月十一日 晴午前十一時英國太子館より
招待せらる。午後三時都下鳥獸草木種々畜ふ。園
園を觀る

同九月西洋五月十二日雨。魯西亞公使名簿をもて尋問

せ。夜帝旗パレンセスマチルドなり招待なり

同十日西洋五月十三日雨。午後一時。宇漏生使節尋問せ。

夕五時より使節接待役コンシユル等同行にて

テヤ劇劇場トルマツトルイへゆく。陪に

此劇場多く佛都前頭の景状は同一因て畧せ

同十一日西洋五月十四日雨。午後瑞西と、ストル尋問

せ。ドワンテロイス方ふて夜茶の饗なり此饗も前同断

同十二日西洋五月十五日霽。朝八時佛帝より使者立ら

せ。レセツフチユイス宮殿におわて。開筵ふより

シヤンクラ
館舎移徙

ボアデブロ
ンギユ公園

て招待なり。午時シマルクランの館舎へ引移る

此シマルクランハ市外幽雅の地にて。ボアデ

ブロンギユへ續く地なり。ボアデブロンギユ

ハ都下遊ウツケ憩の最大なる公園にて。アルクデト

リヨンブより一條の大路乃至周囲二三里も

のるべく。樹木陰森として路幾筋もの至て。中

央廣き路ハ馬車を通し。樹林中左右の徑ハ遊

歩又ハ騎馬の行路とす。洒掃等至りて届き。池

辺ハ異禽珍魚など養ひ小艇ありて。游棹ヨサナ檀小

せしむ。其池中を周回して。舟錢九二三フラン
クなり。中島小佳木奇花など植え。茶肆も奇麗
し。建敷。風流の士なと夕餐を命ぜ。此池へ瀑
瀑布泉を懸。夏月占涼の處とせ。此他ボワドワ
ハニセーヌ。バルクモンワビットシヨウモ
ンなど。處々小遊龍の園ありて。各其水土小
りて意匠を異し。風景も各様にて目を娛
ましめ心を怡しむ。都て士民遊息の公園
にして。其趣き同一なり。是を畧し
此公園を行過て。ヌーエーといふ地は出る所也。

ジャラルグントアグリマタシヨンといふ植物苑
あり。各國の佳木奇草を集めて培養す。熱地の
もの。苑中玻璃室を作り蒸氣にて暖めしめて培養
す。處々水泉ありて。浮萍の類も生し。紅魚。白魚。毒
瑠魚などを飼ふ。又禽獸を畜ひ置所あり。牛馬。豕
羊鹿。猿。兎。犬など種々あり。カングロウとて亜刺
比亜産の獸あり。其貌鼠の大なるところありて。四
支前へ不用小足にて走る。極めて速なり。此ハ
腹皮二重ありて。子つるときハ。常々外皮より入
て養ふ。時々稚子首を腹皮より出して食を見む

甚く奇也。其他獺。狐。狸。貉の類も最多し。禽ハ孔雀。鶴。錦鶏。雉。鳩。雞。の異品なる其外小鳥も數種あり。其風土は。従ふて氣候を疑ひ。性を換え。質を變せしむる等の術を修せる為。設けし所にて。經費ハ其修行の者。結社中別は供給の法に違ひ。費を厭ふに。如斯細事も能其試験を遂ぐといふ。又此地の外ふジャルダンデプラントとて。セー又河の南縁は。大なる禽獸園あり。大概前の植物園小同し。只獅子。帝。豹。象。豺。狼。熊。羆。獨。等の類を畜ふ。猛類ハ皆鉄園カサネにて畜ふ。ヒポボタムとて。南亞墨利加

は産する此類なき。醜態なる海獸あり。其貌牛の大なるふて。趾太く短し。全体毛なく。鱗の肌ヒとくくして厚く。甚く猛健なり。口方大カハふして。恰も祇園會小用ゆる獅子の頭カサネ。鬚ヒゲなり。常に水中サモニ放ハナ置カキ看ミ官カミパンを授与サヅクを水より出で。これを食ふ。又蝮ハナ鱗カキの類多し。同國の産なり。暖を好める由サモニ子て箱小入カサネき。フランクットカサネにて包カサネちり。其大なるハ圍り一尺許もあカサネるべし。時々箱の中カサネて首を掀カサネ舌を鳴カサネらせり。又鯢カサネ鮫カサネの類あり。いつきも生カサネ畜カサネせり。又巨鯨。巨蛇。の枯骨を全備カサネを。都て修

學の具は供と云。庭中小高き所小一樓あり。樓上死者の骨及小児の骸を酒にて漬せし。或ハ死者を其儘小乾し堅めある。ミイラノ如き者數多く。羅列し何きも。小札もて其由縁を標紀す。蓋異邦の人骨格の異なる。或異形な体を受けし。又病小よりて変せし病根等を考證し備ふなるべし。これ又修學の者結社して。如斯其細大を遺さず。攻索し心を盡せる感をへし。

同十三日 西洋五月十六日 雨。無事

同十四日 西洋五月十七日 曇。午後英國公使館の舞踏を

看る 此舞踏も前

同十五日 西洋五月十八日 晴。佛后妃の催舞躍し招待あり。午時大砲器械貯所。并巴里有名の古寺。其外交易。公事吟味所。罪人裁断所等を見らし陪せり

同十六日 西洋五月十九日 晴。無事

同十七日 西洋五月二十日 晴。休總

同十八日 西洋五月二十一日 曇。アベニューデランペロウールの傍に在る花園を看る

同十九日 西洋五月二十二日 曇。暮七時外國事務執政方ふて。夜茶の饗あり。此夜茶も前同断

船西日記

精之二

三十一

同廿日 西洋五月晴モリス方へ往く

同廿一日 西洋五月晴無事

同廿二日 西洋五月晴おあーく

同廿三日 西洋五月晴おあーく

同廿四日 西洋五月晴午後一時より巴里市街埋

埋地道

地道を視る小陪を

此埋地道の興作は近年の事にて、いま々町末
に造築中なり。市街往來の下は別の一の洞道
を穿通し。洞内立行して碍りなき程にて下小
一條の川を疏し。両側歩行をべく市中人家の

濁水及汚溺。水戸尻までも。皆此川に注ぐ。各處

は注ぐ穴のりて滝の如くは落つる。上は大き

拱把の鉄管を通して。春用水を水源より遠く

引き。細き鉄管は。尾斯を釜元より取りて。各家

に分つ。所々明り取りの穴のりれども。委しくは

燈を点せされい見えうさ。余輩城の裏手小

あま市街より。鉄蓋を披き石段を下りて入る。

川幅は架せし車通り。其邊は衆りて屈曲十五

六丁小して川幅廣くなる。是より舟小乗り凡

半里許よして。城西一个の市街は上る。洞中陰

陰とて其氣鼻を穿つ漸く日を望むを得て
大小快然とす。此埋地道人家の汗物を流せる
より常より是より為小掛け置く人夫ゆりて。器械

よて掃除して壅塞なりらむ

同廿五日 西洋五月晴。阿蘭公使并海軍コロニイ

砲兵頭并ホーシヤン等尋問を佛國アミラール

ヲエー支那日本海の總督を命せられ。近日本邦

へ出帆せよより尋問を

同廿六日 西洋五月晴。アミラール附屬の官人等来る

航西日記卷之二

明治四辛未冬發兌

耐寒同社藏

須原屋茂兵衛

山城屋佐兵衛

和泉屋市兵衛

賣弘書肆

